

◆ 総括報告

少子高齢社会の抱える難問が大きな社会問題として取り沙汰されている現在、高齢者が出来る事は何かを模索し、勇気をもって第一歩を踏み出すことが大切と思います。

従来大阪北部にあった「大阪府老人大学」が廃止され、NPOに変わり拠点が大阪市内に移ったことから、北摂に講座新設を求める声が高まり、それに応えるため『近くて便利な地域密着型講座』の新設を目指して活動を始めました。

- ◇ 以来3か月、NPO設立準備委員会を経て、平成24年5月17日「大阪府北部コミュニティカレッジ」(ONCC)のNPO法人設立総会を開催しました。
設立趣意書、理念、定款、事業計画、収支予算、役員を選出、主たる事務所を茨木市に、従たる事務所を豊中・吹田・摂津・枚方の各市と豊能町に置くことを決議しました。
その上で、大阪府にNPO法人認証申請を行いました。
- ◇ 平成24年9月4日に大阪府のNPO法人認証を得て、翌9月5日に北大阪法務局に登記申請、同日付けで正式に登記上のNPO法人資格を取得しました。
- ◇ ONCCの理念・趣旨に基づいた「年度制講座」(2年制)の実施に向けて、講座開設委員会を設置、科目を5学科に決定し、各講師の快諾を頂戴して、教室も、地元の関係各位の絶大なるご支援とご協力により、茨木・豊能・豊中・高槻・吹田とも至便な場所に確保できました。特に、各学科のカリキュラム編成には、大阪府へのSA養成講座認証の要件とONCCの理念・目的が反映されるように慎重に検討しました。
- ◇ 受講生の募集活動を推進するため募集委員会を組織し、「設立記念講演会と講座説明会」を開催、併せて、チラシ・募集要項の配布、関係市町での講座説明会を実施して、『地域密着型の年度制講座』開校の広報活動に注力しました。
- ◇ 全てが「ゼロ」からのスタートでしたが、大阪府・茨木・豊中・吹田・高槻・摂津の各市と豊能・島本の各町及び茨木市・豊中市社会福祉協議会の後援。そして、梅花女子大学、追手門学院大学経済学部の後援と提携講座の開設。また北摂を中心とした大阪府高齢者大学8地区同窓会の後援という、強力なご支援を頂いたのが大きな力になりました。
- ◇ 特に、各市町では公共施設への募集要項の配布並びに市政だより等の広報紙への掲載など有形無形の恩恵も頂きました。また、高齢者大学同窓会の各地区同窓会においても、設立記念講会の後援、講座説明会のご協力ならびに機関誌への講座の紹介、募集要項の配布等積極的な協力を頂きました。誠に有り難く感謝申し上げます。
- ◇ 幸いにも応募申込み開始の12月20日には「野菜づくり科」を除く4学科で定員を超過しました。特に「歴史・文学科」では、定員の4倍以上の応募があり、急遽茨木教室にもう1クラス増設するなど“嬉しい誤算”でした。

以上の経過を経て25年1月31日の応募締め切り時には、第1期生285名の受講生を迎えることになりました。来期へ向けて、さらに一歩を踏み出そうとしているところです。

◆ 講座開設実行委員会

6月に「講座開設実行委員会」を立ち上げ、ONCCの事業の柱となる「2年制の年度制講座」事業を平成25年4月開校に向けた具体的な活動を開始しました。

- ・当初のメンバーは、常任理事と各教室担当で構成したが、全役員の総力を結集した運営が望ましいとの意見で、3回目以降は「拡大実行委員会」として運営しました。
- ・11月1日から募集要項の配布開始という目標で、「年度制講座立ち上げ工程表」を策定、月2回のペースの定例会で基本計画立案・進捗状況管理等を行いました。
- ・なお、本委員会の実行部隊として「市場調査分科会」「カリキュラム編成分科会」を設けて、それぞれのミッションを果たしました。

1. 「市場調査分科会」は、従前の検討に続き、府下・周辺地域の特徴のある生涯教育の実態や府北部の高齢者実態等の調査を継続するとともに、最重点検討事項として、公共施設・学校・民間施設等の教室調査（収容能力や使用料）を担当しました。

教室探しは、開校予定地の茨木市（後に高槻市を含む）・豊中市・吹田市・豊能町在住の役員と会員が中心となり、地区同窓会の協力も得ながら、地域の情報収集活動に取り組み、6月中には北摂5市町で、5教室を確保できる見通しが立ちました。

この教室確保の目途により、ONCCの年度制講座立ち上げの諸準備が当初計画した工程通りに推進できた大きな要因となりました。

2. 「カリキュラム編成分科会」は、学科名を「健康づくりと福祉を学ぶ科」「自然とものづくりを愉しむ科」「歴史・文学を彩る“人々と心”を学ぶ科」「キャンパスライフ（美術）科」「野菜づくりを楽しむ科」に決定して、各講座の専門的知識や開講予定地との関連性を考慮した理事会メンバーで構成し、次の4点について検討を重ねました。

- ① 平成25・26年度のカリキュラム編成、実施曜日、キャッチコピー等。
- ② 「健康福祉科」は大阪府認定のシルバーアドバイザー養成講座を目指す。
- ③ 教室、実習地（園芸科の実習耕作地は大阪府みどり公社を通して農地を借りる）。
- ④ 講座費用の精査。

3. 分科会活動とは別に、特命事項として下記の成果を上げることが出来ました。

- ① 「健康づくりと福祉を学ぶ科」の大阪府SA認定。
- ② 大阪府の後援名義使用許可認定。
- ③ 地元の梅花女子大学並びに追手門学院大学との提携授業。

◆ 教務部門

NPO法人としての理念・趣旨に則して、目的実現のため、各学科実行委員会/拡大実行委員会・理事会の検討内容を踏まえて、2年制講座開校の新機軸を構築しました。

- ・地域に密着したシニアカレッジを目指した。
- ・北部の高大同窓会の後援を得て、地域社協や大阪府北部各市の後援を得た。
- ・教室の確保は、北摂各市町と会員の献身的なご支援のもとに、茨木市「林第2ビル」、高槻市「高槻南スクエア」、吹田市「ディオス1番館M2」、豊中市「刀根山蛭池会館」、豊能町「吉川自治会館」で開校出来る運びとなった。

1. 専攻講座は、5 学科・6 教室で開校することにしました。
 - ①「健康づくりと福祉を学ぶ科(大阪府シルバーアドバイザー養成講座)」は茨木市、
 - ②「野菜づくりを楽しむ科」は豊能町、③「自然とものづくりを楽しむ科」は豊中市、
 - ④「歴史と文学を彩る“人々と心”を学ぶ科」は高槻市と茨木市
 - ⑤「キャンパスライフ(美術)科」は吹田市
2. 全科共通統一テーマの全科合同「共通講座」を各年4回実施します。
大学連携共通講座として、梅花女子大学で2回 / 年、追手門学院大学で2回 / 年、それぞれの大学キャンパスにて実施。
3. 講座の円滑な推進と受講生相互の仲間づくりを目的に、クラスオリエンテーションを実施します。
4. 午前は各科目別専攻講義とし、午後は受講生自ら学習、また相互に学び合う場として
ルーム講座・現地見学会・クラスミーティングと地域活動参加への意識の醸成を図る、
地域同窓会・S Aとの交流活動などのホームルームを設けます。
5. 課外活動は、受講生の自主活動で行うが、活動開始まではアシスタント・教務担当の支援で行います。
6. 教室は、北摂4市1町にまたがることから、動く教務として各教室に教室長・教務担当・
アシスタント制を導入して連携を密にします。
併せて、教室運営および事務局との連携が円滑に推進できるよう、要領や帳票類を作成・
制定しました。

◆ 事業部門

私たちONCCは、「年度制講座事業」だけでなく、「地域とのふれ合い・助け合い活動」を基本としています。

その他の一般事業を並行して推進することを特徴とするNPOであり、平成24年度は、募集委員企画・立案のONCC設立記念講演会以外に、平成25年度以降の「その他の一般事業」を展開するための基本的な準備活動を行いました。

1. ONCC設立記念講演会の開催
平成24年12月11日、摂津市立コミュニティプラザコンベンションホールで、「悠々弦楽四重奏団」の演奏と、中村鋭一氏による演題「元気を出そう!シニアたち」の講演会と、続いて、パワーポイントによる講座説明会・募集要項の配布を行いました。
北摂地区同窓会のご協力により、約400名もの参加があり、大盛況の講演会となった。
12月6日から北摂6市町で実施の「講座説明会」に繋がる有効なイベントになりました。
2. 平成25年度「その他一般事業」展開に向けた基本準備活動
 - ① 9月24日にキックオフ、以降1回/月の頻度で事業部会を開催し、事業部組織編成、事業部方針の策定及び平成25年度事業計画(案)の取りまとめを行いました。
 - ② 事業企画については、事業部以外の会員からのアイデアを幅広く取り入れるため、企画(提案)書による公募制を採用しました。
 - ③ 「福祉系事業」に関しては、以下の助成金を申請しました。

* 子どもゆめ基金「子どもとふれあう夏休み教室」

* 同行援護従業者養成研修講座

④ 福祉系以外の主な検討企画は下記のとおりです。

* 料理教室（4回シリーズ）、* 源氏物語の世界（文化講座とゆかりの地ツアー）

* 馬場章夫 世界を探検する（3回シリーズ） 他

◆ 広報部門

「講座開設実行委員会」「募集委員会」および各部門との連携を密にして、基本工程のスケジュールそって活動しました。

- ・新たに誕生したONCCを発信するための基本資料の作成とHPを開設しました。
- ・事業基盤の「年度制講座-シニアの2年制大学校」募集要項の作成に注力しました。

1. 行政、大学、諸団体への説明資料として、「ONCCの概要」と「年度制講座の説明資料」の作成。（8月30日）
2. 「各市町の広報誌」への掲載依頼の記事モデルの作成。
3. 「設立記念講演会」のチラシ作成。（10月20日）
4. 「募集要項」 “北摂に清新の風～充実の学び そして地域と共に～” をイメージして作成工程通り、10月30日に完成できました。
5. 「ホームページ」の開設と運用（11月4日）URL <http://oncc.jp/>
6. 「学科別カリキュラム」冊子の編集。

◆ 渉外部門

11月9日、各教室長・副教室長の7名で発足。教務部との連携を図りながら、平成26年度（第2期生）の教室確保を当面のミッションとして活動しました。

当該市町のご支援と関係者の努力で、5教室を官民施設の併用で概ね目途がつかしました。お借りできる公共施設は、細部について調整を進めています。

◆ 募集委員会

8月29日「募集委員会」（委員17名）を設立、広報部・教務部・事務局と連携して精力的に活動を推進しました。

5学科6教室の受講生（285名）が決定

| | | |
|----------------------|------|-----|
| ○ 健康づくりと福祉を学ぶ科 | 茨木教室 | 44名 |
| ○ 野菜作りを楽しむ科 | 豊能教室 | 41名 |
| ○ 自然とものづくりを愉しむ科 | 豊中教室 | 50名 |
| ○ 歴史・文学を彩る“人々と心”を学ぶ科 | 高槻教室 | 60名 |
| ○ 歴史・文学を彩る“人々と心”を学ぶ科 | 茨木教室 | 45名 |
| ○ キャンバスライフ（美術）科 | 吹田教室 | 45名 |

1. 大阪府・関係市町および社会福祉協議会と高大同窓会・S Aの関係団体および地元の梅花女子大学・追手門学院大学等に、開校予定の「年度制講座の概要」の説明をさせていただき、支援をお願いしました。
2. 「キャッチコピー」、「ロゴマーク」、「カレッジの旗」を役員全員で考案しました。
3. 「募集要項」を10月末に完成、11月から各市町役所・出張所、市町の各公共施設、関係地域同窓会・S A等に配布、PRをお願いしました。
4. 「ONCCホームページ」を募集要項の配布に併せて、広報部で11月4日開設。
ONCCの概要・募集要項・学科別カリキュラム・設立記念講演会・講座説明会の案内などの情報を発信しました。
5. 「講座説明会」の日程・会場の決定と「学科別カリキュラム」の作成。
12/6~12/1の間、茨木・吹田・豊中・高槻・箕面の各市、豊能町で開催しました
6. 募集の受付開始日に多数の応募を受理。4学科は即日の抽選で合格者を決定しました。特に、「歴史・文学科」は大勢の応募者があり、新たに茨木教室を増設して105名に増員することにしました。後日、「野菜づくり科」も定員を満たしました。

◆事務局

1. 平成24年2月からのNPO設立準備委員会を経て、5月17日大阪府北部コミュニティカレッジのNPO法人設立総会を開催しました。
事業に係る基本的な様々な事項を決議して、設立代表者に船本幸二氏が互選され、主たる事務所を茨木市に、従たる事務所を豊中市・吹田市・摂津市・枚方市・豊能町にそれぞれ置くことを承認されました。
2. その上で、大阪府へNPO法人の認証手続きに入り、定款の作成には大阪府の種々ご指導を得て、9月4日付で正式に認証されました。翌5日、茨木市の北大阪法務局に登記申請を行い、NPO法人資格を取得しました。
3. 6月からは、年度制講座の立ち上げには実行委員会が主体となり、毎月1回の理事会で承認を得ながら、募集委員会の活動へと繋がられました。事務局としては事務所当番を決め、種々の問い合わせに対応、後援申請等諸事務業務を行ってきました。
4. 11月1日を期して募集要項が出来上がり、12月にかけて、各市の広報誌に募集の案内が掲載されると、毎日のように問い合わせ電話と応募の郵便が届き、12月20日の募集受け付け開始日には、「野菜づくりを楽しむ科」以外は定員を超え、抽選を行いました。
5. 抽選決定後の12月20日の夜から翌日にかけて、整理、連絡に多忙を極め、応募者リストの作成、入金確認業務など諸受付事務処理に追われる日々でした。
6. その後、受講生台帳・受講生証・名札等の作成に入り、第1期生を迎えるための入学式等の準備に移り、入学式実行員会を立ち上げました。そのもとで入学式の新たな企画を考え、諸準備を整え、この25年度迎えることができました。
7. また、経理面においては、NPO会計のソフトを導入し、今後の運営の透明化と正確化を期した。今年度の決算もこれに則り行うことができました。

この1年間、会員の皆さまとそれを支えて頂いた多くの方々のお陰であり、さらに連絡事務所や茨木教室の提供をいただく等、地元密着のカレッジに相応しい温かい強力なご援助に深謝と敬意を表します。